

(第三種郵便物認可)

防災学術連携体幹事会が緊急メッセージ

感染リスク考慮した避難を 複合災害へ警戒呼び掛け

防災減災・災害復興に関わる58学会のネットワークである防災学術連携体の幹事会は1日、新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害に対する警戒を呼び掛ける「市民への緊急メッセージ」を公表した。5月の大型連休明けには沖縄が梅雨入りし、夏から秋にかけて大雨・猛暑・台風による気象災害が全国的に多発する季節になることから、感染リスクを考慮した避難の必要性や、避難場所の再確認などを呼び掛けている。

メッセージでは、新型コロナウイルス感染症が全国で拡大する中、自然災害が発生した場合、被災地域は感染症と自然災害による複合災害に襲われ、オーバーシユート（医療許容量を超える感染者の爆発的増加）の可能性が高くなるなど、極めて難しい状況になると指摘。被災地域でワイ

ルス感染の爆発的拡大を防ぐため、被災者や自主防災組織、ボランティア、自治体職員、医療・福祉関係者などへの十分な配慮が必要としている。

ウイルス感染のリスクが高い中では、従来とは異なる感染リスクを考慮した避難方法も重要とし、公的避難所の感染対策では避難所数の増加や避難者間のスペース確保などを挙げている。また、感染者、感染の疑いのある人がいる場合には、建物を分けるなど隔離のための対策も必要と指摘した。

熱中症により基礎体力が衰えると、ウイルス感染者の重症化リスクが高まることから、健康維持を心掛ける掛けもに、扇風機、空調設備の早い段階での準備も呼び掛けている。

防災学術連携体のホームページに掲載しているビデオメ

ッセージで米田雅子代表幹事は「現実には複合災害発生のはげましが差し迫っている。被害を軽減するため、できることから備えを始めてほしい」と訴えた。

7年ぶりに低水準 基調判断を下方修正

経産省が3月鉱工業生産・出荷・在庫指数

経済産業省が4月30日に発表した3月の鉱工業生産・出荷・在庫指数速報値（2015年1100、季節調整済み）は、生産が前月比3.7%低下の95.8となった。2カ月連続で低下し、13年1月の94.8以来、7年2カ月ぶりの低水準だった。うち、橋梁を含む「金属製品工業」は5.8%低下の90.3、セメントや安全ガラスなどの「窯業・土石製品工業」が5.7%低下の95.4。

生産の基調判断は、「一進一退ながら弱含んでいる」から「低下している」へ下方修正した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う工場停止で部品調達に滞ったことなどが影響した。

生産の下げ幅は、4.0%低下した19年10月以来5カ月ぶりの大きさ。業種別では全15業種のうち13業種が前月を下回った。

出荷は5.0%低下の94.0。14業種が前月を下回った。窯業・土石製品工業はセメントや構造材のファインセラミックスなどの出荷が低下し5.8%低下の94.6、金属製品工業が橋梁などの出荷低下によって2.7%低下の92.2だった。

在庫は窯業・土石製品工業が0.1%上昇の101.5。